



小学生バドミントン通信

NO.26 2023.12

発行：日本小学生バドミントン連盟 会長 黒川 茂

若葉カップ男子優勝 西尾ジュニア

チーム一丸となって！

西尾ジュニア 男子監督 岩野 晃

昨年の初優勝に続き連覇という最高の結果を出すことができました。

昨年の初優勝を経て、今年も本番が近づくとつれ周囲からは今年も"優勝"という期待がひしひしと伝わってきて、選手達にはかなりの重圧がかかっていました。

県予選が終了し、本来なら本戦に向けての練習に集中して取り組みたいところでしたが、ABC県予選、全小県予選など大事な大会が続くためなかなか思う様に若葉に向けた練習できませんでした。

しかしながら、ジュニアの全体練習以外でも各自が個々のレベルをアップすることに必死に取り組んでくれて、ダブルスのペア練習なども短期間でなんとか形にすることができたのではないかと思います。

昨年優勝したことにより自信が付き意識も高くなったことが大きいのではないかと改めて感じました。

大会が始まるとまず昨年3位で県大会で我々と切磋琢磨しているはりーあっぷ（男子）さんが初戦で敗退したとの情報が飛び込んできました。

非常に驚きましたが、やはり昨年以上に他県のレベルが上がっていることを肌で感じたと共に愛知県代表として敗れたはりーあっぷさんの為にも簡単には負けられないと気を引き締めました。

昨年の初優勝メンバーから主力の6年生が抜け、今年は昨年度よりも総合力は下だと思っており、今年はかなり厳しい戦いになると大会前から予想しておりましたが、やはり初戦から3-2の僅差の戦いをしいられました。どのチームと対戦しても100%自信を持って勝てるオーダにはならず、コーチや保護者と一緒になって話し合い、毎試合のオーダを決めていきました。

どこで負けてもおかしくない試合ばかりでしたが昨年同様に勝ちたい気持ちが強いチームが勝つと選

手に鼓舞し、試合に出る選手のみならずベンチの選手もそれぞれの役割を全うする様に伝えました。

声出しの応援も解禁されたことありますがチームがより一つになり苦しい試合も乗り切れたと感じました。

準決勝は昨年決勝戦を戦った岡垣jrさんとの対戦になりました。勝負のポイントだった5年生ダブルスは気迫がぶつかり合う試合で本当にどちらが勝つかわからない試合でしたが観客席からの保護者の応援、ベンチからの選手の応援でチームが一丸となりました。ファイナルの激闘を制し、結果この試合を勝利することができ、決勝戦ではこの勢いのまま相手を圧倒することができました。

大会を終えてコーチ陣、選手、保護者全員が昨年の経験を経て成長することができた実感しました。

この経験はまた来年、再来年と引き継いでいきたいと思えます。

最後になりますが、毎年この大会の開催にご尽力頂いている関係者の皆様に感謝を申し上げますと共に、参加者である我々も大会に恥じないプレーをお見せできる様に日々努力を怠らずに頑張っていきたいと思えます。





若葉カップ

若葉カップ女子優勝 JBCふちゅう

一球入魂

JBCふちゅう 女子監督 中島悠也

JBCふちゅうは2014年からスタートし、今年で10年目のチームです。

チーム結成のきっかけは、高岡第一高校バドミントン部監督の中田先生から、ジュニア世代強化のため、ジュニアチームをやって欲しいと依頼されたことからでした。チームの応援幕にある「一球入魂」は、私自身が高岡第一高校の選手だった時の応援幕にあった言葉を使わせてもらっており、気持ちのこもったプレーをして欲しいという願いがあります。

結成当初から日本一を目標に掲げてはいましたが、当初の1・2年は県大会でも1回戦負けが当たり前で、お昼過ぎには会場から撤収することもしばしばありました。そんな中でもコーチや多くの方が練習に協力してくれ、少しずつ結果は出るようになってきました。

徐々に力をつけてきましたが、昨年度の若葉カップ女子団体で5位に入賞することができ、選手達にチームの目標は日本一と事あるごとに言ってきました。選手と保護者の意識も高くなり、昨年12月の全国小学生バドミントン選手権大会4年生以下女子ダブルス優勝、今回の若葉カップ女子団体優勝という結果につながったと思っています。

今回の若葉カップ全国大会は苦しい状況からの逆転勝ちの試合が続きました。その苦しい状況を乗り越えられたのは、高岡ジュニアさんとの県大会決勝で、0-2の劣勢から逆転勝ちできた経験が大きかったのではないかと思います。まさしく若葉カップ全国大会の準決勝、決勝と同様の展開でした。チームの中心の5年生は、プレッシャーのか

かる場面で思うようなプレーができないようにも見えましたが、あきらめずにプレーを続けて、流れを引き戻すことができたと思います。

今回の大会は、5年生が全勝でチームを支えて、女子団体に優勝することができましたが、約40名の小中学生全員でつかみとった結果だと思っています。同時期に中学生は、クラブチームとして初の全国中学校バドミントン大会を目指して挑戦していて、結果的にブロック予選で敗退したため、目標には届きませんでした。小学生達を引っ張ってくれました。

また男子は若葉カップ全国大会で5位入賞でしたが、女子のライバルとして常に競い合い練習することができました。色々な要素が重なり、素晴らしい結果が出たことを理解し、支えてくれている方々に感謝の心を忘れずに、次の目標を設定してチーム全体で頑張っていきたいと思っています。

最後になりますが、小学生バドミントン連盟及び、長期間に渡り大会を運営していただいた大会関係者様に心より感謝を申し上げます。





2023年度の大会記録



第39回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟・長岡京市)

2023年7月28日～31日／京都府長岡京市・西山公園体育館

【男子の部】

- 優勝 西尾ジュニア (愛知県)・・・2連覇
- 2位 FANATIC (滋賀県)
- 3位 岡垣ジュニア (福岡都)
- 永井クラブ (岡山県)

【女子の部】

- 優勝 JBCふちゅう (富山県)・・・初優勝
- 2位 はりーあつぷ (愛知県)
- 3位 T-Jump (愛知都)
- 岡垣ジュニア (福岡県)

第24回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟)

2023年8月11日～13日／香川県高松市 高松市総合体育館 ほか

【男子Aクラス(5・6年生)】

- 優勝 串間 太政 (宮崎県)
- 2位 高島 央侑 (熊本県)
- 3位 篠原 緑 (青森県)
- 角倉 蓮太 (愛知県)

【女子Aクラス(5・6年生)】

- 優勝 富田 千晴 (茨城県)
- 2位 阿波柚子菜 (福岡県)
- 3位 神林 美彩 (宮城県)
- 東谷 悠吹 (北北海道)

【男子Bクラス(3・4年生)】

- 優勝 下永田晟旺 (鹿児島県)
- 2位 小谷 龍生 (岡山県)
- 3位 高橋 慎吾 (東京都)
- 古泉 佑翔 (福岡県)

【女子Bクラス(3・4年生)】

- 優勝 渡邊世伶菜 (愛知県)
- 2位 三堀 爾娘 (埼玉県)
- 3位 宮下 蒼夏 (愛知県)
- 古賀 海奈 (神奈川県)

【男子Cクラス(1・2年生)】

- 優勝 張 宇 (埼玉県)
- 2位 小澤 斗葵 (三重県)
- 3位 栗原 瑛虎 (東京都)
- 福美 翔琉 (千葉県)

【女子Cクラス(1・2年生)】

- 優勝 松本 玲奈 (神奈川県)
- 2位 小倉 葵依 (福岡県)
- 3位 山川 優那 (福井県)
- 堀口 祈莉 (熊本県)



ジュニア育成の歴史的転換期

小学生の大会も全小大会は32回、ABC大会で24回、若葉カップに至っては次年度で40回を迎えます。長年大会の運営に携わってこられた皆様のご努力や子どもたちのために熱い想いを注いで来られた情熱に頭が下がるばかりです。この成果が近年のオリンピックや世界選手権での活躍など日本のバドミントン隆盛に如実につながっているのは言うまでもありません。今やどのスポーツもそうですが、幼少期からの育成なくして世界に近づくことは難しくなっています。

学校の在り方の見直しを求め一環で始まった中体連の部活動の地域移行の問題が波紋を広げています。今まで学校部活での外部コーチや指導者の導入はすでに行われていたものが、本格的に中体連への地域チームの参加が認められました。都道府県や地域によっても温度差はあるとは思いますが、これによって私たちの関わってきた小学生を中心としたジュニアクラブやスポ少が本格的に中学生を受け入れ、小中を通しての指導を行って中体連大会に参加することができるようになりました。すでに参入し、結果を出している地域もあります。地域によっては、私立校の問題や既存の学校部活との調整の在り方などまだまだ問題が多いとは思いますが、高体連や地域スポーツクラブのことも含めて変化が加速していくのはまちがいないだろうと思われます。それぞれの立場で子どもたちの育成や日本のバドミントンの在り方について議論を進めていかなければなりません。私たちは今、選手の育成の在り方が歴史的に大きく変わる場面に遭遇しているのです。

【日本小学生バドミントン連盟 広報部 吉田 薫】



令和5年度日本小学生バドミントン連盟 強化部の事業報告

日本小学生バドミントン連盟強化部員 松原卓也

1. 令和5年度 第11回U-13選抜強化合宿

令和5年7月31日～8月3日（京都府長岡京市・西山公園体育館）

役員6名、プレンティグローバルリンクス3名、ヨネックス2名、選手56名

2. 令和5年度 第22回選抜強化合宿

令和5年8月13日～16日（香川県高松市・高松市総合体育館）

役員10名、選手49名

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから初めての日本小学生バドミントン連盟主催の合宿となりました。5類に移行したものの、感染症対策については、体温計測や手指消毒など今までと同様に行いながら合宿を実施しました。

日小連の合宿は、U13ジュニアナショナルメンバーに加え、前年度全国小学生の大会実績や、各ブロック推薦で選手が召集されるため、定期的に行われているジュニアナショナルのメンバーとは異なるものになります。そのため、選手もコーチ陣も、普段と異なる人と関わり、お互いに知ることができ大変有意義なものになっています。

練習内容は、U13ジュニアナショナル合宿の内容を全体に還元するために、ベースはU13合宿の内容となりますが、それに加えてヨネックス相和さんの講習や、プレンティグローバルリンクスの皆さんとの練習、また、日小連の強化部員が考えた練習など、

様々な要素を織り交ぜながらの合宿となり、選手の競技力向上に寄与しているものと考えています。

今年の選手の特徴は、男女共に元気が良く、声を掛け合い、盛り上げて練習するのが上手な年代でした。その一方で、練習以外の場面で盛り上がり過ぎるところもあり、コーチから注意を受ける場面もありました。U13ジュニアナショナルメンバーとそうでない子が混ざると、その対応が大変なところではあります。

また、昨年同様にコロナ陽性者が京都合宿、香川合宿共に出てしまいましたが、これまでの経験を活かして、速やかな隔離、病院への送迎などの対応を行うことができました。

全国から未来のオリンピック選手を夢見る子どもたちが集まり、互いに切磋琢磨していく日小連合宿が、子ども達、指導者の皆さんに今後も貢献していけるよう、内容の充実を図りながら、魅力あるものにしていきたいと思えます。



日本小学生バドミントン連盟 事務局

〒068-0025 北海道岩見沢市5条西13丁目20番地 下野和義 気付

TEL：0126-25-0089 FAX：0126-25-4710

<http://www.syoubad.jp> E-mail：shimono@syoubad.jp